2026 年 10 月 21 日

各位

日本茶 GI 推進委員会
全国茶商工業協同組合連合会

日本茶 GI 推進を宣言

「日本茶の未来をつくる発表会～日本茶を、世界へ。未来へ。～」

日本茶 GI 推進委員会設立および公式アンバサダーに有村架純さんが就任

生産者・行政・輸出関係者が集結し、日本茶ブランドの未来を議論

全国茶商工業協同組合連合会は、日本茶 GI 推進委員会のメンバーとして、同委員会が主催する「日本茶の未来をつくる発表会～日本茶を、世界へ。未来へ。～」に参画しました。

日本茶及び日本茶 GI の普及・利用を促進し、国内茶産地・生産者を支えながら、国内外における日本茶の価値向上と日本の茶業全体の振興に寄与することを目的として、2026 年 8 月 27 日に日本茶 GI 推進委員会が設立されました。この組織は生産・流通・輸出・産地団体・茶関連企業など、茶業界の幅広い関係者で構成されています。

日本茶 GI 推進委員会は 10 月 21 日、日本茶 GI 登録を契機に、今後の活動方針を宣言する「日本茶の未来をつくる発表会～日本茶を、世界へ。未来へ。～」を東京都内で発表するとともに、生産者、行政、輸出・プロモーション関係者らによるパネルディスカッションを実施。「世界で日本茶が求められる今、その追い風を日本の産地に還元し、未来へ向けた持続的な「日本茶の価値」へどう変えられるか」をテーマに議論が交わされました。
その後、日本茶 GI の認知拡大を目的に、俳優の有村架純さんに「日本茶 GI 応援アンバサダー」を委嘱しました。

これを祝って「鹿児島お茶大使」を務める哀川翔さんや「ふじのくに観光大使」「静岡市ふるさと納税応援大使」を務め地域の魅力を発信している勝俣州和さんも駆けつけ、日本茶 GI 応援アンバサダーである有村さんを囲みトークを展開、それぞれの日常におけるお茶との関わりや、日本茶の魅力について紹介され、会場は大いに盛り上がり、最後は委員会関係者、登壇者、アンバサダーらが集合して日本茶 GI の認知向上と価値発信に向けて、業界一体となって取り組んでいく姿勢を示しました。

■日本茶の価値を未来へつなぐために

「日本茶の未来をつくる発表会～日本茶を、世界へ。未来へ。～」を開催

冒頭、日本茶 GI 推進委員会委員長の鈴木貞美が「日本茶未来宣言 2026」を発表。
4 つの方針を示し日本茶産業の発展と日本茶の価値向上に向けた活動を推進していくことを宣言

日本茶 GI 推進委員会委員長の鈴木貞美

【日本茶未来宣言 2026】
① 日本茶 GI の価値を、社会へ広げる
② 生産者とともに、持続可能な日本茶産業を育てる
③ 世界へ、日本茶ブランドを発信する
④ 幅広い世代へ、日本茶文化をつなぐ

続いて、来賓ご挨拶として、農林水産副大臣である藤木眞也氏が登壇、「日本茶」の GI 登録を日本茶ブランドの国内外への発信に向けた大きな一歩と評価しました。需要拡大を持続的な成長につなげるため、生産基盤強化と価値発信の重要性を強調すると共に、オールジャパンで取り組む日本茶 GI 推進委員会や「日本茶未来宣言 2026」への期待を述べ、農林水産省としても茶業・茶文化の継承を支援していく考えを示しました。

農林水産副大臣　藤木眞也氏

■「日本茶 GI への期待と日本茶産業のこれから」～多様な立場から日本茶の将来像を議論

パネルディスカッションでは、行政、生産者、輸出促進機関、有識者が登壇し、日本茶 GI の活用と今後の日本茶産業の方向性について意見交換が行われました。

日本貿易振興機構（JETRO）農林水産食品部 次長 飯島 隆 氏

日本茶の輸出は近年大きく伸長しており、数量以上に輸出額が拡大していることから、海外で日本茶そのものの価値が高く評価されていると認識しています。抹茶を中心に、ほうじ茶や玄米茶など多様な茶種も浸透し始めています。今後は日本茶ならではの品質や文化的背景、ストーリーを発信しながら、GI を活用して真正性を担保し、ブランド価値を高めていくことが重要です。世界で長く愛される存在となるよう海外展開を支援していきます。

静岡県農業経営士協会茶部会 部会長 原間 秀樹 氏

茶価の上昇により産地には明るい変化が生まれており、生産者の経営環境も改善しています。これまで更新が難しかった製茶機械への投資や、老齢化した茶園の植え替えに取り組む動きも広がっています。2030 年には「日本茶」が世界共通語となるよう期待しており、その実現に向けて生産現場としては高品質茶から原料茶まで多様な需要に応える生産体制を維持し、日本茶産業全体の持続的な発展に貢献していきたいと考えています。

農林水産省 大臣官房 生産振興審議官（兼農産局） 秋葉 一彦 氏

日本茶産業は輸出拡大という大きな追い風を受ける一方で、生産者の高齢化や生産基盤の維持といった課題にも直面しています。農林水産省としては、スマート農業や新品種への改植、有機栽培技術の高度化、気候変動への対応などを通じて生産性向上と持続可能な産地形成を後押ししていきます。2030 年に向けては、輸出による成長の波を生かしながら、日本茶に関わるすべての人が誇りを持てる産業へ発展させたいと考えています。

鹿児島県 有限会社なべやま 代表 鍋山 勝幸 氏

海外需要の拡大を受けて生産量の拡大が求められる一方で、有機栽培への対応や病害虫対策、干ばつなど気候変動への対応が大きな課題となっています。特に高品質なお茶づくりには多くの人手やコストが必要であり、行政と連携した環境整備が欠かせません。GI の価値を支えるのは生産現場であり、まずは本物の品質を追求することが重要です。自信を持って世界に届けられる日本茶づくりを通じて、GI ブランドの発展を支えていきたいと考えています。

日本茶 GI 推進委員会 委員長（日本茶業中央会 専務理事） 鈴木 貞美

日本茶 GI は、海外市場における模倣品や誤認表示への対策として、本物の日本茶であることを証明する重要な仕組みです。GI マークを共通の目印として国内外の認知を高め、日本茶の信頼性とブランド価値向上につなげていきたいと考えています。現在、多数の事業者・商品が GI 活用を進めており、生産から加工・流通まで茶業界全体が一体となって取り組んでいます。幅広い消費者に日本茶を身近に楽しんでもらえる市場づくりを目指します。

モデレーター：㈱農林中金総合研究所 研究員 山本 裕二 氏

世界的な日本茶需要の拡大、生産現場の変化、国の政策支援、そして日本茶 GI の誕生という一連の動きを踏まえ、日本茶は今まさに大きな転換点を迎えています。輸出拡大による追い風を一過性のものに終わらせず、産地の持続的な発展と日本茶の価値向上につなげていくことが重要です。2026 年は単に輸出が伸びた年ではなく、日本茶の未来が動き始めた年として位置付けられるべきであり、その第一歩となる機会になったと総括しました。

■有村架純さんが「日本茶 GI 応援アンバサダー」に就任

続いて日本茶 GI 推進委員会会長（日本茶業中央会 会長）上川陽子が登壇、委員会の立ち上げについてその意義を語った。7 月に「日本茶 GI」が登録承認されたことを受け、日本茶の価値を国内外へ発信する新たな一歩として大きな期待を寄せていること、日本茶は全国各地の産地が長年培ってきた歴史や特色、多様な生産技術によって支えられており、近年は抹茶を中心に輸出拡大の成果も現れているとした。

一方で、各産地が抱える課題を克服しながら持続的な成長を実現することが重要であるとも指摘。日本茶 GI を「オールジャパン」の取り組みとして推進し、産地が一体となって日本茶のブランド価値向上と世界への発信強化を図っていく考えを示した。

日本茶 GI 推進委員会会長（日本茶業中央会 会長）上川陽子

その後、日本茶 GI 応援アンバサダー委嘱式を実施。有村架純さんに委嘱状が授与されました。有村さんは、「日本茶には人と人をつなぎ、日常を豊かにする魅力がある。これから多くの方に日本茶 GI の価値や魅力を伝えていきたい」と意気込みを語りました。静岡・三重・鹿児島など各産地との関わりにも触れながら、日本茶文化を未来へつなぐ活動への参加を表明しました。

また委嘱式には、各生産地で日本茶のプロモーションに携わる「掛川茶 PR アンバサダー」渡邉龍太郎氏、「かごしま cha ガール」の森田茉莉花氏、「伊勢茶娘」の小川紗弥氏も登壇し、有村さんのアンバサダー就任を祝いました。

左から伊勢茶娘の小川紗弥 氏
「かごしま cha ガール」の 森田茉莉花 氏
「掛川茶 PR アンバサダー」渡邉龍太郎 氏

渡邉氏は、「より手軽においしく飲めるお茶の飲み方をお伝えし、これからもお茶の普及に貢献していきたい」とコメント、森田氏は、「鹿児島には“ちゃいっぺ”という言葉があり、お茶でも飲んで一服していってくださいという意味です。

日本各地に愛情を込めてお茶を作っている方がいらっしゃるので、各地の特徴から自身の好きなお茶を見つけて欲しい。」と語りました。小川氏は、「日本茶の魅力としてそのおいしさや健康もありつつ、その歴史にも興味をもっていただきたい。当初海外に展開されたお茶のほとんどは伊勢茶だったという記録もあり、より伊勢茶の存在感も高めていきたい。」と述べました。

■哀川翔さん、勝俣州和さんも登壇　～　日本茶の魅力を楽しく発信

アンバサダー委嘱式にはゲストとして哀川翔さん、勝俣州和さんも登壇しました。

現在「鹿児島お茶大使」を務め、鹿児島のお茶の魅力を広く発信している哀川さんは、日本人の暮らしに根付く日本茶文化の魅力に触れ、「日本茶が持つ本物の価値をもっと多くの人に知ってもらいたい」とコメントしました。

「ふじのくに観光大使」「静岡市ふるさと納税応援大使」を務め、地域の魅力を発信している勝俣さんは、日本茶は世代を超えて親しまれる存在であると語り、「若い世代にも身近な形で日本茶の魅力が広がってほしい」と期待を寄せました。

有村さん、哀川さん、勝俣さんの 3 名によるトークでは、それぞれの日常におけるお茶との関わりや、日本茶の魅力について紹介され、会場は大いに盛り上がりました。

■日本茶を世界へ、未来へ

イベントの最後には、委員会関係者、登壇者、アンバサダーらによるフォトセッションを実施。日本茶 GI の認知向上と価値発信に向けて、業界一体となって取り組んでいく姿勢を示しました。
日本茶 GI 推進委員会は今後、「日本茶の未来をつくる発表会～日本茶を、世界へ。未来へ。～」の実現に向け、国内外への情報発信や理解促進活動を進めるとともに、日本茶文化の継承と持続可能な産業基盤の構築に取り組んでまいります。

日本茶 GI 推進委員会について

日本茶 GI 推進委員会は、日本茶及び日本茶 GI の普及・利用を促進し、国内茶産地・生産者を支えながら、国内外における日本茶の価値向上と日本の茶業全体の振興に寄与することを目的として、2026 年 8 月 27 日に設立しました。生産・流通・輸出・産地団体・茶関連企業など、茶業界の幅広い関係者で構成されています。

＜構成団体＞
・公益社団法人日本茶業中央会　・日本茶輸出組合　・全国茶生産団体連合会
・全国茶商工業協同組合連合会　・公益社団法人静岡県茶業会議所
・公益社団法人京都府茶業会議所　・公益社団法人鹿児島県茶業会議所　・三重県茶業会議所
・株式会社伊藤園　・サントリービバレッジ＆フード株式会社　・三井農林株式会社
・鹿児島県経済農業協同組合連合会　・共栄製茶株式会社
・丸七製茶株式会社　・ハラダ製茶株式会社